

## 平成 29 年度第 2 回伊勢市総合計画審議会 議事要録

◆日時 平成 29 年 8 月 31 日（木）19：00～20：30

◆会場 シンフォニアテクノロジー響ホール 4 階 大会議室

◆出席委員

山本 誠委員、森 裕美委員、竜田 和代委員、池田ミチ子委員、永井 正高委員、  
山本 康史委員、酒徳 雅明委員、西村 純一委員、西村 幸泰委員、三村 和也委員、  
新田 均委員、重松 玲委員

◆欠席委員

美濃 松謙委員、岩崎 良文委員、浅野 聡委員、

◆出席職員

情報戦略局【情報戦略局長、情報戦略局参事、同企画調整課課長補佐、同課主査 2 名】

環境生活部【環境生活部長、環境生活部参事】

教育委員会【教育事務部長】

健康福祉部【健康福祉部長】

危機管理部【危機管理部長】

産業観光部【産業観光部長】

都市整備部【都市整備部長】

総務部 【総務部長】

◆内容

- (1) 前回の振り返り
- (2) 基本構想にかかる意見交換
- (3) その他

◇会議録（要録）

以下の要録は、事務局により要旨を編集したものです。微妙なニュアンス等が表現されておきませんので、ご了承ください。

○基本構想にかかる意見交換

・市民意識調査等を見ると、行政内の部門間の連携が少ないとの声を見て取れた。現行の総合計画において他部門との連携といった対策は講じているか？

→例えば 2 年ほど前から（縦割りを解消する取組として）予算編成をするにあたり、市長と各部長で予算に関し懇談を行い、連携を図り、所属に降ろしている。

・市民意識調査で、住みたい理由で、子育てにかかる環境（教育・公園）を選ばれる人が少ない。また子ども未来会義からは、住みたいまちにするにはそのような環境を求める意見があったので、将来的に力を入れるべきだと思う。

・小学生や中学生の声を聞く、また子どもたちが考えることは良い取組であり、自分たちの未来を良く考えていると思う。

・12年後、人口減少の第2段階になり中核を担っていくのは、団塊ジュニアからの次世代になる。地域福祉を考える時、「地域力」が大切になると思う。市民意識でも地域のつながり、人のつながりといった意見が多くあったように感じた。子どもたちから高齢者や障がい者が「困らないまち」という意見があったことに驚きを感じた。

・人口減少を見据えなければならない。これからは若い人を意識し、住みにくさを感じず、元気になってもらいたい。医療面については、中学生の意見では医療機関が少ないとあったが、日赤や新しくなる市民病院ほか産婦人科、小児科など伊勢市は充実していると思う。

・市民意識を見ると「交通が不便」の意見が多い。伊勢市だけでなく、県全域で言われている。公共交通機関の利用促進は永遠の課題である。12年先を見ると、自動運転の波が来るので、来た場合の対応をしていかないといけない。

・若い子に「住みたい」声が多い一方で、働く場所がないと難しいので、雇用の創出が重要。人口減少は仕方がないが、人口減少にあった背伸びしすぎない伊勢らしいまちづくりをしていくのが大事だと思う。

・人口減が進む中、中心市街地が遷宮を機に活性化された反面、沿岸部の過疎化が進んでいると思う。「まち」が身体であれば「ひと」は血液であり、循環しないところはやがて壊死する。過疎化が進むと町は疲弊し、祭りが出来なくなり、今度は人のつながりなくなる。買い物難民も生まれる。中心市街地だけでなく、過疎化が進むまちも大切にしてほしい。観光面においては、観光産業の人材不足（調理スタッフ等）などの新たな課題が生まれている。観光客数は平成25年の式年遷宮以降右肩下がりであったが、伊勢志摩サミットで横ばいになった。今後スポーツの大きなイベントが続くので、それらを活かした取組が必要と考える。

・人口減少は避けられないので、流出も止めないといけないが、伊勢市は魅力あるまちであるので移住も意識しないといけないと思う。農林水産面においては、将来を見据えて生産者の支援をしていただき、ブランド化の対策を立てていただ

きたい。

・アンケート等資料を見せていただき、どのように基本構想に反映させるべきか。満足度の高いものを伸ばす、もしくは低いものを補う基本構想にするのか。人口減に対して、攻めの方向性をとるのか、それとも守備的な方向性をとるのか、それにより基本構想が変わると思う。財政状況から見ても、総花的には出来ないと思う。また、12年先を見据えた基本構想であれば、南海トラフ地震が起きることを前提にまちづくりを考えておいてもいいのではないか。地震がおこってから考えるのでは難しい。

・基本構想は理念的なものであり、抽象的に書かざるをえない。調査結果をどのように昇華させて方向性を出すのか。伊勢市にとって大きな環境変化として「人口減」の方向性ではあり、市は人口ビジョンをつくったが、人口は増えていくという選択肢はなかったと思う。また南海トラフ地震がいつ発生するかわからないというのも伊勢市の大きな方向性である。12年後でも変わりようが無さそうなものに対してどのように対応していくか、それをイメージして基本構想の絵を描く必要があると思う。ワークショップの結果を見ると「基本構想」というより「基本計画」に活かしていく必要があると思う。

→人口ビジョンは、人口の下げ幅を緩やかにするという考え方になっている。満足度の高いものを伸ばすのか、もしくは低いものを補うのかとの話があったが、今後の方向性を考えるに当たり、両方の考え方が必要になると思っている。今日は、資料からの分析、委員の意見を踏まえ、現行の基本構想のどこを継承し、どこをどのように修整するといった意見をいただき、次回審議会で案を示したい。

・若い人がこれほど住みたいと思っていることは意外。回答した年代はわからないが、農林水産、商工等といった産業への市に対する期待度が低い一方、将来像へのキーワードとして「神宮のまち」、「文化」が多く選ばれたのを見ると、歴史、伝統文化のイメージが良いことがわかる。しかし、そのイメージが産業や暮らし、自分たちの地域の豊かさには繋がっていない感じがする。漠然とした良さを地域に住むなかで感じているが、具体的な生活の手段に転換する方法が分からないのではないかと。三重県は県内高校から県外大学への流出が全国トップ3に入る。40%しか残らない。人口の自然減が問題なのか、流出が問題なのかを考えるべき。市だけでなく、高校・大学の教育機関や産業界とが連携して考えないといけない。

・「地域のつながり」という言葉がひとつキーワードとして読み取れるが、「地域」のつながりの意味を拡張しなければいけない。現在は、「地域＝住む場所」だけではなく、「地域＝生活区域」と捉え、それをどのようにサポートするかを考えてい

かないといけない。

・中心市街地は、遷宮を機に活性化されているように見えるが、長い歴史を見ると萎んでいると思う。人口減少は仕方無しかもしれないが、市内では増えている小俣などの地区もある。それがなぜなのかを検証しないといけないのではないか。1次計画、2次計画をいかに進めたかを検証したうえで、3次計画は考えないといけない。働く場所がないのも問題。大学進学で転出する子どもたちが戻ってくる場所がない。観光だけで成り立たないと思う。製造業、農林業をどうするか目標を立ててやらないと3次計画は厳しいのではないか。

・今、企業がどんどんなくなっている理由が、倒産でなく、跡継ぎがいないと聞く。このような状況と市の計画がリンクしていく必要があると思う。

皇學館大学は18～22歳が3000人いる。そのうち大部分が伊勢以北から来ている。今いない人を呼び込むのは難しいので、いる人をどうやって定着させるかということ優先的に考えていくべきではないか。

#### ○今後の進め方について

次回第3回の会議については、10月上旬を予定し、日程調整をさせていただく。

第2次総合計画の検証結果は、9月中旬を目途に、郵送する予定

次回の会議について、本日いただいたご意見やアンケート等結果を踏まえてたたき台を示し、それを基に議論していただく予定

第4回の審議会については、市長選挙後の11月下旬を予定

本日の会議結果の概要は、会長に相談の上、名簿と共にホームページに掲載させていただく。